

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-15

なし

(発行年 / Year)

1910

第二節 代理

理由 凡ソ法律行為ハ其行為ノ性質ニ及セ
 サル限々ハ他人ヲシテ之ヲ為サシムルコ
 トヲ得ルヲ以テ原則ト為ササル可カラズ
 加之法律ハ或場合ニ於テ代理人ヲシテ本
 人ニ代リテ諸般ノ法律行為ヲ為サシムル
 必要アリ是ニ於テ委任ニ因ル代理ト法
 律上ノ代理トノ區別ヲ生ス而シテ代理ト法
 其何レノ種類ニ属スルヲ問ハズ本人ト代
 理人トノ關係及ビ第三者ト本人丈小代理
 人トノ關係ヲ規定セザル下カテ本人事案ニ
 於テハ^{代理ノ規定}近世ノ^{法律}法例ニ徴シ^{原則}總則ニ於テ第
 三者ト本人及ビ代理人トノ關係ニ付キ必
 要ノ規定ヲ設ケタリ^{但此}第三者ト代理人
 トノ關係タルヤ素ト純然タル代理關係ニ
 非スト管モ汎ク代理關係ヲ解スルトキハ
 之ヲ以テ其一部トナス^得得ヘシ是レ本
 節ニ於テ第三者ト本人トノ關係ヲ規定ス
 ルト同時ニ第三者ト代理人トノ^{關係}關係ヲ保
 テテ規定シタル所以ナリ又^{本人ト代理人}本人ト代理人
 トノ關係ハ委任契約ノ關係ニシテ代理關
 係ノ範圍内ニ属セザルヲ以テ之ヲ第三編
 ニ譲リタリ但法律上ノ代理ハ其各種ノ代
 理人ニ付キ別段ノ定ナキ限必^編編テノ点ニ
 於テ本節ノ規定ニ依ルヘ^特特モノトス

既成法典ハ其財產取得編第十一章ニ於テ

因信リ
 之ニテ
 了

代理ト云ハル標題ニテ委任者ト代理人ト
ノ關係及ヒ第三者ト委任者又ハ代理人ト
ノ關係ヲ併セ規定シタリトモ其規定ノ
十中八九ハ委任者ト代理人トノ契約關係
ニ屬シ彼ノ第三者ト本人又ハ代理人トノ
關係ニ至リテハ之ヲ規定スル條項甚ク不
充分ナリトモ既成法典ハ近世ノ學ヲ理ニ
基キ實際ノ必要上ヨリ一般ノ法律行為ニ
對キ代理ヲ認メタルニ拘ラズ高キ此
點ニ付キ羅馬法ノ舊套ヲ脱セテ
ル如キ觀テルハ頗ル惜ム一キコ
トト謂フヘシ今本案ニ於テ茲
ニ代理ニ關スル規定ヲ掲グル
モノハ主トシテ此以テ点ヲ辨
ハントスルノ主意ニ外ニテラヤ
ルナリ

法典調査會

第百條

(理由) 本條ハ代理人カ代理行為ヲ為スニ必
要ナル條件及ヒ其代理行為ノ效力ヲ規定
シタルモノナリ所謂代理行為ノ必要條件
トハ代理人カ其代理權ノ範圍内ニ於テ法
律行為ヲ為スコト及ヒ明示又ハ默示ニテ
本人ニ代リ其行為ヲ為スノ意思ヲ表示ス
ルコト即チ是レナリ而シテ此ニ條件ヲ具
備シタル代理人ノ法律行為ハ直接ニ本人
ニ對シテ其效力ヲ生シ本人ハ之ニ因リテ權利

ヲ得又ハ義務ヲ負フモノトス蓋シ代理人
ハ單ニ本人ノ機具ニ非シテ自己ノ意思
ヲ表示シ其意思表示カ直接ニ本人ノ利害
ニ於テ其效力ヲ生スルモノタルコトヲ示
シタルナリ

第二項ハ第三者カ代理人ニ對シテ催告又
ハ解約ノ通知ノ如キ單獨行為ヲ為シタル
場合^{（代理ノ行為ニ對シテ）}於テハ直ニ^{（代理人ノ行為ニ對シテ）}第一項ノ規定ヲ適用ス
ルコト能ハサルニ因リ獨ニ民法草案ノ例
ニ倣ヒテ之ヲ置ケリ

第一百條

〔理由〕本條ハ代理人カ法律行為ヲ為スニ當
リテ本人ノ為メニスル意思ヲ表示セヌ又

法典調査會

自己ノ為メニスル意思ヲ有セサルヘキ場
合ヲ規定シタルモノトス蓋シ此場合ニ於
テハ眞實ノ意思ハ表示セラレス現ニ表示
セラレタル意思ハ眞實ノ意思ニ非ラサル
ヲ以テ一般ノ原則ニ依ルトキハ其意思表
示ハ何等ノ效力ヲ生セザルモノナリ然
レトモ代理人カ本人ノ為メニスル意思ヲ
表示スルコトヲ怠リタル場合ニ於テハ假
令自己ノ為メニスルノ意思ヲ有セザリレ
トオト雖モ之ヲシテ其意思表示ノ拘束ヲ
受ケシムルコトハ實際ニ於テ極メテ必要
ナリトス之ヲ要スルニ本條ノ規定ハ前條
ニ所謂本人ノ為メニスルコトヲ示シテ意

意思表示ヲ為スヘキ要件ニ指キタル制裁ナ
リトス若シ夫レ代理人カ本人ノ為メニ
ル意思ヲ表示セスレテ為シタル法律行為
ニ何等ノ效力ヲモ附セサルハ第三者ハ
之カ為メニ不測ノ損害ヲ蒙ルに至ル可シ
是レ即チ独逸民法第百一十條ノ例ニ倣ヒテ本條
ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第百二條

〔理由〕本條ハ財産取得編第百三十四條ノ
規定ニ字句ヲ修正ヲ加ヘタルモノニ過キ
ス原文ニ只委任者ト代理人トノ關係ノ
ニ付テ規定セリトモ此規定タル本人ト
第三者トノ關係ニ於テモ亦適用スヘキモ

法典調査會

ノトス蓋シ代理人ノ無能力者タルコトヲ
妨ケサル所以ハ他ナシ其代理行為ニ依リ
テ自ラ損失ヲ受クルコトナキヲ以テ無能
力者ノ保護ヲ害スルコトナシ無能力者ト
モ苟モ本人ニ於テ自己ノ代理人ト為ル
ニ足ルモノトセハ敢テ之ヲ禁ズルノ必要
ヲ見サルナリ但本條ニ於テ無能力者ト稱
スル者ハ限定能力者ノ謂ニシテ其全ク意
思能力ナキ者ニ付テハ固ヨリ本條ヲ適用
スヘキニ非サルナリ

第百三條

〔理由〕本條ニ於テハ代理人ハ自己ノ意思ヲ

表示スルモノトスルノ主義ヲ採リリト雖
 モ第百条第一項ノ規定ハ未タ此主義ヲ明
 ニスルニ足ラザルヲ以テ茲ニ本条第一項
 ノ規定ヲ設ケ以テ此主義ヨリ生スル一
 結果ヲ示シタリ第一項ハ即チ第一項ニ對
 スル制限ニ外ナラズ今此制限ヲ設ケタル
 所以ハ他ナシ此場合ニ於テハ本人カ代理
 人ノ大意ニ與ツテ大ニカアリタルヲ以テ
 ナリ

第四百條

(理由) 本条ノ規定ハ既ハ法律及ヒ諸外國ノ
 法律ニ存スル規定ナリトス抑モ代理権ノ
 範圍ヲ定ムルハ畢竟意思ノ解釋ニ俾スヘ

法典調査會

キモノタルコト論ラ俟タスト雖モ若し本
 人カ代理権ノ範圍ヲ定メスニテ汎博ナル
 委任ヲ與ヘタル場合ニ於テ代理人カ賣買
 贈與其他ノ處分行為ヲモ爲スコトヲ得ハ
 キモノトセバ其危險甚大ナルナク又本
 人ノ意思ニ依スルコト多クハキニ依リ
 法律ヲ以テ其權限ノ範圍ヲ定ムルヲ便ト
 ス但簡理行為ノ何タルコトニ付テハ疑議
 ラ生スルコトナカルヘキニ依リ此ニセテ
 招ケザルナリ

第五百條

(理由) 本條ハ財產取得條第一三十三條ニ修
 正ヲ加ヘタルモノトス原文ニ依リハ代理

人時ニ禁セラレサル限ハ復代理人ヲ選任
 スルコトヲ得ルモノトセリ是レ佛國其他
 八立法例ニ徴ヒタルモノナリト雖モ委任
 ノ本旨ニ悖ルモノト謂ハルハ得ス蓋シ
 委任者ハ代理人ノ適任ナルコトヲ信シテ
 之ニ委任ヲ爲シタルモノニシテ代理人カ
 自ラ適任ト認メタル者ニ代理ヲ爲サセム
 ル意思アリタルモノト推定スルハ頗ル其
 當ヲ得ルナリ故ニ本案ニ於テハ代理人ハ
 其一己ノ意思ヲ以テ復代理人ヲ選任スル
 コトヲ得サルヲ原則トシ茲ニ此原則ニ對
 スル例外ノ場合ヲ規定シタリ

第百六條

法典調査會

(理由) 既成法典ニ依リハ委任者ヲ明示又ハ
 默示ニテ復代理人ノ選任ヲ禁セサル限ハ
 代理人ノ選任ヲ爲スコトヲ得ルキヲ以テ
 其場合ニ於テ代理人ハ復代理人ノ行爲ニ
 付キ自己ノ管理ニ於ケルト固一ノ責任任
 スルキコトニ定メタリト雖モ(取二三) 一
 項未段(本案)ニ於テハ前条ニ到奉セル場合
 ニ限リ復代理人ヲ許スニ因リ其場合ニ於
 ケル代理人ノ責任ハ既成法典ニ定ムル日
 リモ一層輕カラサルコトヲ得ス蓋シ本案
 條一項ヲ設ケタル所以ナリ第ニ項ハ廢文
 條ニ項ニ聊カ字句ヲ修正ヲ加ハタルモノ
 ニ過キス又原文第三項ハ前述復代理ニ關

スル原則ノ変更ノ結果トシテ之ヲ削除セ

第百七條

應由本條ハ財産取得締結ニ百三十六條ニ
該当スルモノニシテ原支第一項ハ其一部
ハ本案ニ採リタル主義ノ結果トシテ其適
用ヲ生ゼズ又一部ハ本案ノ規定アル為メ
其必要ナキニ因リ之ヲ削除シ同條ニ項ハ
如キモ但君主親ノ規定ノニ之ヲ設ケル必
要アルハキニ因リ本案ニ之ヲ採用セリ但
直接訴訟ニシテ託託ノ要スル如ク間接
穩當ナラサルヲ以テ直接ニ權利ヲ行使シト
改メタリ又追認ノ效果ヲ生スルハ本人力

法典調査會

復代理人ニ對シテ權利ヲ行使スル場合ノ
ニシテ在ラス文ニ對シテ義務ヲ履行セザル
場合ニ於テモ亦同一ノ結果ヲ生セザル可
カラサルカ故ニ又ハ義務ヲ履行シタルハ
ホノ數字ヲ加ヘタリ

第百八條

(理由)本條ノ規定ハ代理人ト復代理人ト其名稱ヲ異ニスル者ノ或ハ疑義ノ生スルアラシキコトヲ恐レ之ヲ設ケタルノミ

第百九條

(理由)允ソ代理人カ本人ノ考メニ代理ヲ為スニ當リテハ忠實以テ其事ニ從ハサル可カラスト今若シ代理人カ本人ニ代ハリテ自己ト法律行為ヲ為スコトヲ得ヘシトセハ本人ノ利益ト自己ノ利益ト抵觸スルノ結果ヲ生スルコトナシトセス此場合ニ於テ代理人ハ本人ノ利益ヲ後ニシテ自己ノ利益ヲ先キニスルコトアルヲ免レサル

法典調査會

ヘシ然ルニ若シ之ニ責ムルニ必ス本人ノ利益ヲ先キニスヘキコトヲ以テセハ是レ難キヲ人ニ責ムルモノト謂ハサル可カラズ代理人カ第三者ノ代理人トシテ法律行為ヲ為ス場合ニ於テモ亦殆ト同一ノ困難ヲ生シ其一方ノ本人ヲ利セントスルトキハ他ノ一方ノ本人ノ利益ヲ顧ルニ違アラサルコト多シトス故ニ本條ニ於テハ代理人ハ何レノ名義ヲ以テスルト尚ハ自己ト法律行為ヲ為スコトヲ得サルヲ以テ原則ト爲シタリ但第ニ項ノ場合ニ於テハ毫毛弊害ノ之ニ伴フモノナキヲ以テ例外トシテ之ヲ許スコトニ定メタリ

第一百條

(理由) 既成法典ニハ第ニ有ク對スル意思表示ニ依リテ代理權ヲ授與スルコトヲ得ル規定アルナシ是レ一ノ欠点ナリト信ス蓋シ吾人々第ニ有ク對シテ或人ニ代理權ヲ授與スル意思ヲ表示シタルトキハ其人トノ間ニ委任契約ノ千條ヲキニ拘ハラズ本條ニ定メタル效果ヲ生スルモノト為スコト實際ニ於テ極メテ必要ナリト是レ独乙民法草案ニ倣ヒテ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第百十一條

(理由)本条ハ財産取得締約ニ百五十五條第ニ
項ノ規定ヲ採用シタルモノナリ凡代理人
カ権限外ノ行為ヲナシタルトキハ其行為
ハ固ヨリ本人ニ對シテ何等ノ効力ヲ生
セサルモノトス假令第百三條ニシテ善意十
ハモ其一事ヲ以テハ未タ此原則ヲ覆スニ
足ラサルナリ然リトモ蓋モ善意ノ三善カ善
意ニシテ且ツ代理人ニ其行為ヲ權限アリ
ト信ス可キ正當ノ理由ヲ有スルトキハ契
契取引ノ安全ヲ保持スル爲メ其代理人ノ
爲シタル權限外ノ行為ヲ有效ト爲スノ必
要アリトス是レ本条ノ規定ヲ置キタル所以ナリ

法典調査會

但原文ノ善意云々ハ他ノ要件中ニ自ラ包
含スルモノナルヲ以テ之ヲ削除シタリ

第百十二條

(理由)本条第一項ハ法律上ノ代理トシ代理
ト委任ニ因ル代理トニ通用スヘキ規定ナ
ルヲ以テ此ニ之ヲ置ケリ其委任ニ因ル代
理ニ特別ナル代理權消滅ノ原因ハ之ヲ第
三編中委任ノ条下ニ於テ規定セレントス

第百十三條

(理由)本条ハ財産取得締約第百五十八條ニ
依リタルモノニシテ第百三條ヲ保護スル爲
メ極メテ必要ナル規定ナリトス瑞西債務
法及ヒ独逸民法草案ニ依リハ代理權ノ消

減ハ之ヲ第三者ニ通知スルニ非ラズシハ
 其效ナキモノトアリ然リトモ此規定タ
 ル其通知ノ方法如何ニ依リ或ハ第三者ノ
 為メニ不充分ナルヘク或ハ之ニ及シテ巨
 多ノ費用ト多数トヲ要シ煩ニ過クハ弊ア
 ルヘシ故ニ本案ニ於テハ^{律同}排他法其他大
 羊ノ文法例ニ倣ヒ代理権ハ前条ニ掲ケタ
 ル事由ニ依リテ当然消滅スルモノトシ只
 善意ニシテ且ツ過失ナキ第三者ニノ之
 ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルモノトセリ
 又独逸民法草案ニ於テハ本人力代理又ニ
 委任状ヲ交付シタル場合ニ於テ其委任状
 ノ返還ヲ受ケサル力又ハ裁判所力其效無
 ク宣言セサル間ハ代理権ハ消滅セサルモノト為
 ス^{此トモ}是亦第三者保護^ニ致シ^其其^過古ノ範
 圍出テ且場合ニ依リテハ極メテ不便ナル規
 タルヲ免レ且故ニ本案ニ於テハ此ノ如キ特別
 ナル場合ニ付キ規定スルノ方法ヲ採ラシテ專ラ事實
 裁判官ノ認定ニ一任シタリ

法典調査會

第四百四十八

(理由) 本条以下ハ全ク代理権ヲ有セズ又ハ代理権ノ範
 圍ヲ越ヘテ為シタル法律行為ノ效果ヲ規定シタル
 モノナリ本案ハ^{律同}排他^章章案ニ倣ヒ先ツ契約ノ
 場合に單獨行為ノ場合にトヲ區別セリ代理権ヲ有セサ
 ル者カ契約ヲ為シタル場合に於テハ其契約ノ本
 人ノ追認^{律同}追認^ハ之ニ對シテ全ク其效カヲ生セ

代理人の相争方ニ對シテ全ク其責
 ヲ免レテ相争方モ亦一定ノ範圍内ニ於テ
 拘束セラルルモノトス要スルニ此場合ニ
 於テハ代理権ヲ有セザル者ノ行爲ハ何人
 亦對シテモ無效ナルニ非スレテ一種ノ效
 カヲ生ズルモノナリ之ニ反シテ代理権ヲ
 有セザル者ク爲シタル單獨行爲ハ其效力
 ナキヲ以テ原則ト爲シ且チ百十九條ニ場
 ケタル場合ニ限リ無効ニ干スル亦若ク以下
 ノ規定ヲ適用ス可キモノトナリ是レナシ
 單獨行爲ハ無効ト置ナリテ全ク相争方ノ
 行爲ニ非ス追認ニ因リテ其效力ヲ生ズル
 キモノトスんハ本人ノ爲メニハ利益ナル

法典調査會

フト論ヲ後ヲスト爲モ相争方ニ於テハ其
 行爲ノ效力不確定ナル爲メ速急サナレト
 セス尤モ本人ニ對シテ或期間内ニ確答ヲ
 爲スヘキ旨僱告セシムルフトナリ得ザルニ
 非スト是モ斯ノ如キ煩勞ヲ取ラシムルカ
 理由ナキ懸待ト謂フザルヲ得ズ唯其代理
 人ト稱スル者ノ代理権ヲ有セスレテ單獨
 行爲ヲ爲スフトハ同意シ又ハ其代理権ヲ
 爭フナリレトキハ限リ契約ニ甲ズん規定
 ヲ適用スルコトヲ得ヘキノニ要スルニ代
 理権ナキ代理ヲ認らんノ必要ハ主トシテ
 契約ニ付キ之ヲ見ルナリ

既成協約ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シ

ル行爲ニ付キ委任者ハ追認ニ因リテ其
責ニ任ズルコトノ外取ニ五口ニ項中何
等ノ規定ヲモ該シタルヲ見ス或ハ事務管
理ニ干スル規定ノ適用ニ依リ代理セラレ
ル者ノ利益ハ多クノ場合ニ於テ保護セ
ラルコトヲ許一レトモ完全保上ヨリ考
ルトキハ不完全ヲ免カレザル如シ是故ニ他
然ルニ代理ノ規定ニ依キ亦各以下ノ規定
ヲ該シタル所似ナリ

第百十五條

(理由) 本條ハ代理權ヲ有セザル者ト契約ヲ
爲シタル相手方ハ其契約ニ拘束セラルル
コトヲモスト共ニ其拘束ヲ免カルベク
法ヲ定メタルモノトモ蓋シ契約ト呈セ相
手方ヲシテ豫限ナク之ニ拘束セラレ

法典調査會

トナストキハ權利關係ノ永ク確定セザル
不都合ヲ生ズルヤシ以テ相手方ヲシテ相
當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追認ヲ爲スヤ
否ヤシ確定スルヤ否ヲ本人ニ優先スルコ
トヲ許セシメタリ而シテ本人ハ其期間内
ニ確定スル爲ヤサルトキハ追認ク拒絶シ
ルモノト看做スルコト固ヨリ論ヲ俟リ
ケル所ナリ 猶民法草案ニ於テハ本人ハ
二週間内ニ確定ヲ爲サザルトキハ追認ヲ拒
絶シタルモノト看做スルノ規定ナリトモ
斯ク法律ニ於テ一切ノ場合ニ適用スルコト

2

其間ヲ定メシヨリ一章ハ瑞西債務法ニ依ヒ
相當ノ期間ヨリ破産ヲ為サレルルヲ以テ
便利ト信シタリ

第百十六條

〔理由〕代理權ヲ有セザル者ノ爲シタル契約
其相手方ニ對シテハ尙然無効ニ非サル
ト前二條ノ規定ニ依リテ已ニ明ナリト
是モ其代理權ト稱スル者力代理權ヲ有セ
ザルコトヲ知リタル場合ト之ヲ知ラザリ
シ場合トニ依リテ其結果ヲ異ニスル所ナ
カル一カラス若夫レ相手方カ代理權ノ欠
缺ヲ知ラザリシトヤレ之ヲ知ラズ契約ノ取
消ヲ求めんコトヲ許セシムルヲ至奇ナリ

法典調査會

ト之ニ及シテ代理權ノ欠缺ヲ知リタル
場合ニ於テハ亦人ノ追認ヲ諒シテ契約ヲ
爲シタルモノナランヲ以テ恰モ彼ノ未改年
者ト契約ヲ爲シタルニ同シク前條ノ規定
ニ依リ亦人ニ對シテ催告ヲ爲スコトヲ許
ルノ外他ノ保護ヲ與テハキテノニ非サル
ナリ

第百十七條

〔理由〕本條ノ規定ハ既成法典ニ在リ之ナレト
モ又諸國ノ法律及ヒ學說ニ於テ殆ト一致
ニ認ムル所ナリ然リトモ又明之ナキトキ
一或ハ疑ヲ生シ得ルキト但書ヲ以テ其兩
用ヲ制限スルノ必要アルヲ以テ此ニ之ヲ置シ

第百十八條

(理由) 本條ハ代理權ヲ有セサル者カ他人ノ
代理人トシテ契約ヲ為シタル場合ニ於テ
其相手方ニ對スル責任ヲ定メタルモノナ
リ此場合ニ於テ若本人カ其契約ヲ追認ス
レハ代理人ニ責任アルコトヲ要セズト雖
モ追認ナキトキハ相手方ニ對シテ代理權
アリト信ゼンノタル過失ノ責ニ任セサル
ハカラス本條第一項ハ即テ其責任ノ何タ
ルコトヲ示シタルモノニシテ代理人カ相
相手方ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フコト
ニ付テハ諸國ノ法律其規定ヲ異ニセスト
雖モ尚ホ相手方ノ選擇ニ從ヒテ履行ノ責

法典調査會

ニ任スヘキヤ否ヤニ付テハ立法例一定セ
ズ既成法典財産取得篇第二百四十四條未
又ハ即チ本條第一項ノ場合ノ規定ニシタル
モノニシテ此規定ニ依ルトキハ代理人ハ
單ニ損害賠償ノ責任ノミヲ負担スルモノ
ナルヤ又ハ履行ノ責任ヲモ負担スルモノ
ナルヤニ付テ頗ル明瞭ヲ缺ケリ然レトモ
草案註釋書ニ就キ考ルトキハ單ニ賠償ノ
責任ヲ規定シタルモノノ如シ佛蘭西、荷蘭、
伊太利、モンテネグロ、西班牙、諸國ノ民法及
ヒ印度契約法等ニ於テモ亦此主義ヲ採リ
リ南法第三百四十三條ハ代理ノ通則トシ
テ本條ノ場合ヲ規定シタリト雖モ其規定

甚々簡ニシテ草案説明書(三九六)ニ依ルモ

本編ノ旨ニ付キ其何シニ決セント欲シト

ルヤヲ確カスル、苦ムナリ然リハハ雖モ同

法第四十九條ハ代務人ニ付キ本條第一項

ト同一ノ規定ヲ掲ケタリ是レ猶逸高法ノ

規定ニ倣ヒタルモノナリ猶逸民法草案ニ

於テハ代理ノ通則トシテ本條第一項ノ場

合ニ履行又ハ賠償ノ責任アルコトヲ規定

セリ是レ取引ノ安全ヲ維持スルニ適當ノ

規定ト認ムルヲ以テ此ニ之ヲ採用セリ

第二項ノ規定ハ第一百十六條ノ規定ト相照

應シテ相手方ノ權利ヲ定メタルモノナリ

ト雖モ其條件ニ付テハ少ク相異アル所

アリ第一百十六條ニ於テハ相手方カ代理權

ノ欠缺ヲ知りタル場合ト過失ニ因リテ之

ヲ知ラサリシ場合ト同一視セズ其過失

ニ因リテ之ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ取

消權ヲ有スルモノトセリ抑モ相手方カ代

理權ナキコトヲ知りテ契約ヲ為シタル場

合ニ於テハ本人又追認ヲ期望シタルモノ

ナレバ以テ糲リニ之カ取消ヲ考メコトヲ

得セシム可カラスト雖モ過失ニ因リテ其

事實ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ同一ノ斷

定メ下スニトテ得ス理論上ヨリ觀察スレ

ハ其契約タル當事者ナキノ故ヲ以テ本来

無效ノモノトス然ルニ法律上當然之ヲ無

法典調査會

效トセサル所以ハ唯相手方ノ所為ヲ責ム
ル趣意ニアラズレテ寧ロ本人及ヒ相手方
双方ノ為ノニ便利ナルハキカ故ナリ果シ
テ然ラハ其取消權ノ範圍ハ特別ノ理由ナ
キ限ハ妄リニ之ヲ制限セサルヲ當然トス
代理權ナキヲ知ラサリレトニ付テマテ
相手方ノ不注意ノ責ムルノ理由ヲ見サル
ナリ之ニ及レテ本條ノ場合ニ於テハ^三自
己ノ為メニ契約ヲ為スノ意

思ナキ者ノ責任ヲ定メタルモノニシテ其
代理人ト称スル者ハ或ハ好意ヲ以テ之ヲ
為シタル^ヲ知ルハカラス然ルニ其一方ノ
事情ハ毫モ^視ル所ナク相手方カ相當ノ注
意ヲ用エレハ知ルコトヲ得一キ代理權ノ
欠缺ニ付テマテ之ニ對シテ其責ニ任セサ
ルコトヲ得サルモノトスルハ少シク^酷ニ
過ケルモノト謂ハサルヲ得ス假令之其場
合ニ於テ代理人ニ對シテハ權利ナキモノ
トスルモ善意ナル故ヲ以テ前條ノ保護ヲ
享有スヘク又^第百十六條ノ催告ヲ為
スコトヲ得レ故ニ其過失ノ責ニ任セレ
ムルモ敢テ酷ニ失スルモノト謂フコトヲ得サルナ

法典調查會

第百十九條

第二項末文ハ無能力者ヲ保護スル為メノ
規定ニシテ説明ノ必要ヲ見サルナリ

(理由)單獨行為ニ付テハ本條ニ掲クル條件
ノ具備スル場合ノ外代理權ナキ代理ヲ託
メサルヲ以テ原則ト為スヘキコトハ已ニ
第百十四條ノ説明中ニ述ヘタルヲ以テ茲
ニ再ヒ之ヲ論セズ本條末文ノ規定ハ例ハ
ハ辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ辨濟ヲ
為シタル如キ場合(四八七、助四五六)ニ適用
スヘキモノニシテ本文中ニ包含セサルヲ
以テ之ヲ加ヘタリ